

椎茸と

コースの縁!?! 副業の域超え 地域貢献も

コロナ禍以降、社員に副業を勧める会社も増えているが、全国のゴルフ場のサイドビジネスを探ってみると……。

愛媛県の松山シーサイドCCは原木椎茸栽培を行っているが、副業というよりもはや本格的事業だ。

同CCは当初、27ホールで開場する予定だったが、一部の土地が手に入らず、77年に18ホールでオープンした。「その後、土地が購入できたのですが、9ホール分の土地はそのまま、何かに活用できないか模索してきました。太陽光発電も考えましたが、土地が西側斜面でコストがかかり過ぎる。そんななか、高齢化によって離農する椎茸栽培農家が多いのを知り、それを引き継げば地域貢献もできるのではと考えました」と専務取締役の藤井より子氏。地

場産業を支援する地元、愛媛銀行や大和証券グループなどの投資先にも選ばれた。

同CCでは専門家にアドバイスを求め、2年前に原木を10トン購入し、1年で収穫可能な種菌と、収穫まで2年かかる種菌を5トンずつ植え付けた。1年後初めて収穫した椎茸をレストランで調理したり、売店で販売。現在規模を広げ、80トンの原木を場内で3カ所、2000㎡の敷地に栽培している。食品メーカーと提携して、「干し椎茸」や「冷凍椎茸」といった商品も開発したいと藤井氏。近い将来、障がい者雇用など地域に貢献し、イベントでゴルフ場

を開放するなど地域に根ざした事業展開を目指すという。

もう一例。椎茸栽培で入場者に喜ばれているのは千葉県のABCいすみGCだ。5番から6番ホールにかけてのインターバルが長いのを利用(?)して、その道に種菌を植え込んだ原木を置いている。名付けて「シイタケ街道」。

「以前は『自由にお取りください』の看板を掲げていましたが、現在は椎茸以外のキノコが出てきていて、安全を確認するため、看板は外していません。安全が確認できれば、これからもシイタケ街道の規模を広げていきたいですね(同GC、石原皓氏)とのことだ。